自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600250		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム おびひろ栄		
所在地	帯広市西16条北1丁目25-9		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0174600841-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成25年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔で楽しみのある生活を送ってもらえるように、入居者の生活を職員が常に考えて働きかけることで笑いが絶えないホームを目指している。
ご家族にも安心してもらえるように癒しの環境作りを考えて、親しみのある対応を行なっている。
毎月で行事に取り組み、外食や季節の風物詩等を見学に行ったりと、楽しみのある生活が送れるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道38号線沿いに面したふれあいの里グループホームおびひろ栄は、鉄筋コンクリート造りの2階建て2ユニットで、近隣にはスーパーや協力医療機関、避難場所として確保されているハイヤー会社があり、恵まれた環境に立地している。昨年度、12月の新体制で、職員の役割が明確となり、業務の効率化につながり、利用者の交流や職員間の協力が日常的に行われている。その中で、家族を含めた合同行事(敬老会、バーベキュー等)の開催、誕生日の個別外出や動物園へ出かけたり、バイキングレストランへの外食、学校行事への参加など、行事やアクティビティを積極的に取り入れ、気分転換、楽しみに活かしている。また、職員からの地域の情報やアイデアを実践に結びつけるなど、職員も向上心を持って介護支援に携わると共に、外部研修、内部研修への参加を通じて知識を深めケアサービスに反映させている。「笑顔で楽しい生活ができるように支援します 一人ひとりの尊厳を大切にします ご家族にも安心していただける癒しの場を提供します 地域に溶け込んだホーム作りを目指します」の理念のもと、職員教育を含めて理念の具体化を目指し日々楽しめるように取り組んでいる。一日を通して穏やかで明るい雰囲気を感じられ、利用者が安心して暮らしている様子が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(1階アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念は職員の掲示板に貼付し常に確認できる様になっている。申し送りやミーティング等で笑顔で楽しく生活が出来るように日々話し合いを行なっている。	事業所独自の理念を事務所や各ユニットの見易い所に掲示し、申し送りやミーティング時に振り返る機会とし、日々、具体化を目指して取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事である盆踊りや焼肉会では可能な限り入居者と参加したり、散歩にて掛けた時は近隣の方々に挨拶を行ないお庭の花を見せていただいたり池の鯉を眺めながらの会話をする等で交流を深めている。	町内会に加入し、近隣の方と挨拶を交わしたり、町内会行事や学校行事への参加など、子ども達との触れ合いや地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。また、近隣で開催される催し物やボランティアの受け入れなど、利用者の楽しみにつなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、ご家族や町内会の方々のご意見や相談を受けている。また、いつでも相談にのれるよう、民生委員の方に働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議について、入居者様の状況や行事、日常の出来事等の報告を行なっている。「食中毒」や「インフルエンザ」等の身近な話題を取り上げて職員より話をさせてもらっている。自由に話し合える時間を設けサービスの向上に努めている。	運営推進会議は家族、地域包括支援センター職員、民生委員、町内会長等をメンバーとして2か月に一度開催し、事業所の運営やサービス向上に活かしている。また、「食中毒」や「インフルエンザ」等の研修会を行うなど、会議を有効に活用している。議事録は閲覧にて情報の共有を図っている。	今後更に地域住民等の多くの参加が得られるよう、議題や内容について工夫することを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自治体からの情報は主にメール等で送られ、都度で確認している。また、介護保健制度、生活保護等の事は直接出向く事で関係を構築するように心掛けている。	行政とは様々な機会を通じて連絡を密に取り合いながら、管理者が直接出向くことで良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行なう事が無いように、ベッド柵での行動の抑制や生活時間での施錠を行わないケアを実践している。また、新人職員に対しては、入社時に勉強会を行なっている。	外部研修や法人内研修を通じて職員は共通認識を図り、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアを実践している。新人職員は入社時に勉強会を実施し、身体拘束の内容とその弊害についての理解につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止に関する内部研修や外部研修等に可能な限り参加しミーティングでも勉強会を行ない、虐待防止に努めるとともに職員同士が話し合える環境と機会を作っている。新人職員に対しては、入社時に勉強会を行なっている。		

ふれあいの里 グループホーム おびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方で成年後見人を利用している方には、管理者が後見人への対応を行なっている。成年後見制度の知識が深まるように学ぶ機会を作り、理解が出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には契約事項を読み合わせて、疑問や要望等の確認や、初期段階で細かな確認を行ない、信頼関係を築けるように努めている。契約後も不安や疑問がある際には対応を常時行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に日常の様子を伝えて、ご家族や本人の意向をもとにケアの改善を行なっている。ご家族にはアンケート調査を行ない、結果をもとに見直しや、改善を行なっている。	ユニット毎意見箱を設置している。家族の訪問時に利用者の近況報告と共に何でも言って貰えるよう努め、出された意見はケア向上に反映させている。また、年1回、本社からのアンケートを実施し、運営に活かすよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が提案や意見を言いやすい関係や環境を心がけ、面談の機会を設けて個別に話が出るようにしている。	管理者は個人面談やユニット毎のミーティング、日々の業務の中で職員の意見・提案を積極的に受け止め、運営に活かしている。日常的に管理者、職員のコミュニケーションはスムーズに行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には、担当を設けて責任ややりがいのある仕事ができるようにしている。管理者と職員は話をしやすい環境である為、(事務所続きの休憩室)不満や不安等を適時、聞き取れる環境創りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の経験と業務内容に応じて研修への参加を薦め、個人の意見にも傾聴している。。意識改革を高める為スキルアップに繋がるような助言や教育をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列法人の事業所と定期的に勉強会や親睦会を開催し、交流を深めている。外部研修時には同業職種の方々と交流を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前には可能な限りホームを見学してもらっている数回の面談を行い、要望を確認し不安が残らないように勤めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み理由を把握し、ご家族が困難と感じている事を明確にするとともにご家族の想いを話してもらえるように努めている。同時にホームの様子を伝えて相互理解が深まるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居検討時にはご家族、ご本人と面談すると共に現在関わっているケアマネージャーや医療機関からの情報を集めている。総合的に判断しホーム以外の可能性(高齢者下宿や他介護施設等)、適切であると考えられる必要な情報を伝えている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の方々が出来る事を探し、食器拭きや掃除、洗濯物たたみ等を行って貰う。また入居者の方々にも教わりながら一緒に行くことで会話を楽しんだり意欲的になれるような関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意向を確認しながら、病院受診や面会など馴染みの関係が継続できるようお願いをしている。また、行事等への参加を通しホーム内の様子を見てもらっている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご本人から現在に至るまでの生活歴や趣味等を聞かせてもらい、日常会話にそれらを交えながら関係作りをおこなっている。また、ご家族だけではなく、友人の方の面会や電話を取り次ぎ、関係が途切えないように努めている。	友人の来訪や電話の取り次ぎ、行きつけの理美容院への支援、ぬり絵や日記を書くなど、利用者のこれまでの暮らしの継続支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が困難な方でも職員が介入し間に入る事で、関わり合いが出来るように配慮している。関係性を考慮して、食堂や居間での座る場所を考えている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の状態に合わせて入院・他施設へ退居されるが、退去後もご家族やご本人に確認の上で面会を行ない安心が続くように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族に一日の過ごし方、日課、趣味等を伺いホーム内での過ごし方等の希望、要望などがあれば検討し対応している。	家族からの情報や生活歴、日常の会話や表情などから思いや意向の把握に努め、利用者本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴などのお話をよくお聞きし、その方に合った生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、出来ないことを把握しご本人の意志を尊重しながらその人らしい生活を送れるように取り組んでいる。個別記録に記録し職員間で常に情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでは入居者の事を話し合い全職員が統一したケアを出来るようにその都度改善を図っている。	担当職員のアイデアや家族の意見、要望を反映させ、計画作成担当者が介護計画を作成している。	毎月カンファレンスの中でモニタリングを行っているが、今後、モニタリングに活かせる記録の書き方、記録の工夫を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや管理日誌等を活用して、危険な行為や受診結果、内服薬の変更なども記載している。情報を共有し会議では見直しを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との通院や外出などで不安がある場合には同行し希望に添えるようその時々で、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や介護タクシー、ボランティアさん等の関わりから市町村の情報を取り入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1度、健康状態を訪問看護師に診てもらい助言を得ている。また、協力医療機関との契約を行ない、定期受診や急変時の対応で医療連携をはかっている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医で受診は家族対応とし、状況に応じて管理者やユニットリーダーが同行し、適切な医療につなげている。月1回の訪問看護師と連携し、健康管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりから身体の変化や異常等を、訪問看護に連絡し適切な助言を受けている。定期的・継続的な医療連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は日常の様子を伝え定期的に病院へお見舞いに伺い担当の看護師や医師とも情報交換をして、早期退院を目指している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変時の受診先を確認し、体調の変化を適時で伝えている。さらに状態が悪化した場合には、ご家族や職員、医師と今後の生活について話し合い入居者が安心して暮らせる場所は何かを考え、提案している。	重度化、終末期については指針を定め、入居時に事業所のできることを説明し、家族と同意書を交わしている。早い段階から家族、職員、医師と現状を踏まえた話し合いを行いながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回消防士の指導を受け救急救命講習を受け、学んだ知識を緊急時発揮できるように今後も研修について検討している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っている。	10月に日中、地震を想定した避難訓練を実施している。建物は鉄筋コンクリート構造になっており、隣接のタクシー会社の2階が避難場所として確保されている。3月に消防署の協力を得て夜間想定避難訓練を予定している。	いつ起こるか分からない災害については地域の協力が不可欠である。事業所の災害時対策に関する理解を求め、地域との連携がとれる体制作りに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関わる事柄やトイレなどの声掛けは耳元で話したり、居室で話している。個人情報、シュレッダーを使用し破棄している。	職員はプライバシーの確保の徹底を図り、新人職員は接遇研修を通じて本人の思いに沿ったケアに努めている。個人情報の取り扱いについては十分注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の好みや意向に合わせて、衣類の選択やレクリエーション、入床時間などを選択してもらえるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・就寝時間などメリハリのある毎日を過ごしているがその時の体調やペースなどに合わせ各自の想いに添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴、外出の際には衣類を選んでもらい、ご本人の意見を聞きながら整容なども支援している。		

ふれあいの里 グループホーム おびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の内容は基本的に同一の物を召し上がられ、必要な方には摂取しやすく形状を変えて提供。出来る事を考えながら食器拭きや大根おろし等を行って貰っている。	利用者の嗜好を把握し栄養バランスに考慮した家庭的な食事で食器拭きや下準備、後片付け等を役割として積極的に行っている。体調や状態に配慮した形態で食が進むよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のメニューをもとに必要な摂取量を摂っていただけに個人別に刻み、ミキサー、トロミなどそれぞれに必要な食事の形態や量を考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なう事を基本とし、清潔保持できるようにしている。また、歯科医の訪問診療を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し個々の排泄パターンを記録しADLや理解力に応じたトイレにつながるサインを行動や表情等から探り誘導をしている。トイレでの排泄を念頭に置きオムツの方でもトイレで気持ちよく排泄できるように働きかけている。	排泄記録や利用者が発するサインで利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄支援に努め、ポータブルトイレを夜間に用いるなど、自立排泄につなげている。パットの当て方については勉強会を実施し、ケアの統一を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調に応じ毎朝の牛乳、一日おきにヨーグルト、食事には繊維質の物を心がけている。また、甘味料にはオリゴ糖を使用し適度な運動も取り入れている。排便困難な方には医師と相談しながら下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各自が週に2回以上は入浴が出来るように曜日を決めて勤めている。ご本人の希望がある場合には添えるように調整し行なっている。	本人の希望や体調に考慮しながら、週2回は入浴できるよう支援している。浴槽は介助しやすいよう中央に設置し、1階にはバスリフトが備え付けられ、安全に配慮した環境になっている。また、同性介助を意識して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの状態や状況によって休息を勧め、寝たきりにならないように、声掛けや活動を行ない、昼夜のリズムが保てるように室温や音や灯りに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果や副作用等を申し送る。医療記録を用いて報告、確認を行なう。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望を確認し個々の好みや楽しみに合わせ、散歩、家事、塗り絵、ゲーム、体操等様々な事を行ってもらいメリハリのある毎日を送ってもらえるように勤めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望に添って数人での外出をしたり地域の子供達ともふれあえるように、運動会見学へ出向き家族や地域の方々の力を借りながら参加できる様努めている。	日常的な散歩や買い物、動物園、桜見学、菊祭り、紅葉狩り、いちご狩り、町内会行事、運動会見学、外食など、家族や地域の協力を得ながら利用者の楽しみ、気分転換につながるよう積極的に取り組んでいる。冬場はアクティビティでの気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を個人で所持されている方は居ない。希望があればご本人やご家族と相談しながら所持したり使用できるように支援を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛けられない方が多いので取り次いだり掛けて差し上げる事をしている。お手紙は出来る方には出来る限りご自身で書いて頂く様支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、行事の写真を貼ったり季節的な物を飾ったりして皆さんに居心地良く快適に過ごして頂ける様にしており、常に清潔保持を心掛けている。	明るく開放感のある造りで、すべてが床暖房で共有スペースには六畳間の小上がりがあり、催し物の舞台になったり利用者が腰をかけて寛いだり、家族の宿泊など、多目的に利用されている。居間は利用者の憩いの場としてソファや観葉植物が配置され、廊下には利用者の作品や写真を掲示し、居心地よく過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自身で気の合う方の傍へ行かれる姿も見られませす。食堂の隣に椅子が用意されており座って外の風景を眺めたりでき一人になれる環境がある。職員はそと側から見守りを行なっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みの衣類等も持ち込んでもらい少しでも馴染みのある環境で生活していただける様に働きかけ、それぞれが居心地の良い環境作りに努めている。	居室にはクローゼットが備え付けられている。それぞれ使い慣れた家具や家族の写真、利用者の作品などが飾られ、本人らしく安心して過ごせる環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面台にペーパータオルを置き自由に使用出来るように表示や高さの調整をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600250		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム おびひろ栄		
所在地	帯広市西16条北1丁目25-9		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階 ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0174600841-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年2月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を目のつく所に張り出しみんなで共有できるようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行なわれる行事等に参加するよう心掛けています。今期は学校行事にも参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の勉強など実施しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1度の会議時に行事や事故等のフロア状況や職員状況を伝え、サービス向上に繋がるようにしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解らない事などある時など、連絡を入れサービス向上に繋げています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を受け、しっかりと知識を得た上で全職員で身体拘束をしないケアに努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、言葉使い等虐待のないように努めています。		

ふれあいの里 グループホーム おびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援や成年後見制度など必要だと感じる利用者様には制度があることやその内容を説明します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は自宅訪問やホームへの来訪をしてもらい、一つずつ説明を行なう。また、改定時等は文章でのお知らせや会合を開き説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を用意しているが、利用されることなくご家族様には、直接何か要望、意見など無いかお聞きしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	時々に応じて職員の思いなどホーム長やリーダーが聞く機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働く条件は整っていると思われます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いろいろな研修や勉強会などに参加出来るように機会を設けており、各自スキルアップをして行けるよう配慮されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、会合があった時意見の交換ホームの近況など情報を交換するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に不安、要望などをご本人、ご家族にお伺いし事前にスタッフ間とも話し合い対応するように努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何度かの面談、電話等にて不安を解消できるよう心がけています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族の望んでいることに対して出来る限り対応するように努めています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力を活かし本人の意思を尊重し出来ることは一緒にするよう対応しています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、通院、行事などに参加していただきご本人と出来るだけ接点をお持ちいただくようにしていただいています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来訪など心よく受け入れ、連絡したい方がいらっしゃれば電話などで連絡がつくように対応しています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の様子を見ながらスタッフが間にはいることもあり、良い関係を築けるよう支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そのつど相談や支援につとめています。他施設などに入所された方などに関しては、訪問しその後の様子など伺いに行くように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞くなどしている。困難な場合は本人の立場になり考えスタッフで相談し対応している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもちろん御家族や面会に来られる方に話をきくように勤めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日状態、様子など把握し記録に残すようにしてスタッフ間で情報を共有するようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、御家族の望んでいることなどお聞きいたりスタッフに日ごろの様子など聞いたりして介護計画を作成するようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に残したり会議にて見直しを検討し話し合いをして情報を共有するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態の変化がある時御家族と相談しその時に応じて対応し支援出来るようにしています。現在は訪問でのマッサージの利用に向けて調整を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が、出来ることをお手伝いいただいたり地域の行事等には出来るだけ参加するよう心掛けています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人、ご家族の希望する所で受診の際には、ホーム長又はリーダーが同行するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の訪問看護があり、個々の利用者さんの変化を共有しています。又何か変わりがあれば連絡し指示を仰いでいます。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々の生活の状況を共有し少しでも早い退院ができるよう面会をし病院からも情報をいただくようしています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	24時間対応の往診もなく、看護師の在駐がないなど、会社自体でも終末ケアはしないとの方針もあり、スタッフとしては、最終的に医療に移行するまでを終末ケアと捉えています			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急に備えマニュアルにそって定期的に訓練を行っている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行なっています。又運営推進会議と合わせて行なうこともあります。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフそれぞれ言葉使いに気をつけお互い注意しながら対応をしています			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを伝達できる方が多いです。それに合わせて対応しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の暮らし方・ペースを把握し、職員間で情報交換しながら支援に心がけています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で判断出来る方は思い通りにしてもらい、判断ができない方も清潔をお心がけています。			

ふれあいの里 グループホーム おびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの味の好みや好き嫌いなど把握し利用者さんと一緒に食事作りや後かたづけをしています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	皆さんの体調など考慮しそれに応じた支援をしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しています。自立している方は見守り、介助の方はその都度関わっています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや仕草等を把握し排泄誘導や介助を行っています。又、立位の取れない方等は職員2人対応し、トイレでの排泄を促しています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつ水分に工夫をしたり各利用者さんの毎日の排泄をチェックをしています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴していただくようそれぞれに合わせてしています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人から就寝していただくまで好きに過ごしていただいています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬の事がわかるよう処方箋を見える所においています。又服薬は飲み込をきちんと確認するようにしています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除が得意、かたづけが得意、散歩が好きな方それぞれに対応を心がけています。			

ふれあいの里 グループホーム おびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日は出来る限り散歩など外に出がけるようにしています。冬場はお食事に出かけたり、屋内で過ごす事が多くなります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社が立替方法をとっているため、ご本人が現金を持つことはないですが、希望する品物などは対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	取次ぎ、手紙の受け渡しを行なっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩行の妨げにならないように出来るだけ広さを心掛けています。又季節を感じられるように壁を使い飾り付けなどとしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る所など決めず自由に過ごせるよう対応しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の状態や好み等をご家族やご本人と相談しながら空間作りを行なっています。居室はご本人が使い慣れた品をお持ちいただいています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等の設置やテーブルの配置等で出来る事を行なってもらっています。お手伝いも積極的に行なってもらえるようお願いしています。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームおびひろ栄

作成日：平成 25年 3月 1日

市町村受理日：平成 25年 3月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議では町内会の方々の参加が不足している。今後、更に地域住民等の多くの参加が得られるように、議題や内容について工夫する必要がある。	地域の方々が興味を抱いてもらえる内容での運営推進会議を開催し一人でも多くの方の参加を得られるように働きかける。また、普段より気軽に立ち寄れるホームを作っていく。	運営推進会議の議題を「介護」や「医療」に留めずにその時々で関心のある内容を検討する。また、日々の挨拶を大事にしていきながら、行事への参加も募り、気軽にホームへ来ていただくことができるホーム作りを行っていく。	1年間
2	26	毎月、カンファレンスの中でモニタリングを行なっているが、今後はモニタリングを活かせる記録の書き方、工夫が必要である。	ケアプランと記録、モニタリングが連動して、その時々でのニーズを細かく読み取れる記録の記載を行なう。	ケアプランを意識した記録を行なうことで、モニタリングへと反映させていく。また、日々の中での何気ない表情や同じことを行なっているも少しずつ違う様子等を読み取って記録を行なえるように観察力をもてるように図っていく。	1年間
3	35	災害対策について。いつ起こるか分からない災害について地域の協力が不可欠である。事業所の災害対策に関する理解を深め、地域との連携がとれる体制作りが必要である。	有事の際に協力を得られるような関係を築き、避難訓練等にも参加をしてもらえる関係を作っていく。	運営推進会議への参加や気軽に立ち寄れるホーム作りを行なうことで、地域の方々に認知してもらい、より良い関係作りを行なう。また、避難訓練への参加を都度でお誘いし促していく。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。